

令和3年度使用教科書採択理由一覧

教科等	採択理由
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「思考の地図」で、思考ツールを提示しており、教材の内容を様々な思考ツールを活用して深められるように工夫されている。 説明的文章や古典、詩歌などの文章にQRコードがつけられており、その教材についての想像力を豊かにするような補助教材を提示したり、その教材を深められるような音声教材が付与されており、深い学びに着目した手立てが施されている。 文学的文章、説明的文章では現在も幅広く活躍している人気作家の文章を取り上げており、中学生にとって親しみやすい文章が配置されている。 教材を用いて身に付ける力が明示されている。また、学習の流れが具体的に示されており、一目でわかるような工夫がされている。 「情報整理のレッスン」や「思考のレッスン」など情報の扱い方を無理なく身に付けられるようにわかりやすく示されている。 「季節のしおり」や中扉、後見返しに四季の言葉や詩歌、時を表す言葉をイラストや風景写真とともに掲載されており、日本語の美しさにふれることができる。 カラーユニバーサルデザインに配慮されている。
書写	<ul style="list-style-type: none"> 「書いて身に付けよう」で日常的に使う言葉を練習したり、「学びを広げる」などで文字文化への認識を深めたりすることによって、社会生活で生きる力を育めるような配慮がなされている。 学習の見通しが持ちやすいよう教科書冒頭で「学習の流れ」について解説されており、一目で流れがつかめるような工夫がされている。 「書き方を学ぼう」ではどこに気をつけて、どのように書けばよいか具体的に書かれており、書く際のポイントが明確になっている。 社会の中で使われている文字に焦点をあて、様々な文字文化の事例が紹介されており、親しみやすい内容になっている。 3年生の教科書内容では高等学校書道との連携を念頭に置き、「篆刻について知ろう」で発展的な内容を学ぶことができる。 カラーユニバーサルデザインで制作されており、見やすい。 大きさもB5判より少し小さめで机の上に収まりやすい。
社会 (地理的分野)	<ul style="list-style-type: none"> 地理的分野の「見方・考え方」を働かせることができるように、「見方・考え方」の具体を表示し、問いと一体化させて学習内容を習得できるような工夫がある。 学習する地域を概観できるように、導入のための写真を大判で表示し、その写真の数も豊富に掲載されている。 二次元コードを設け、単元に関わる動画を視聴することができ、学習内容の定着を視覚的に支援するための工夫がある。
社会 (歴史的分野)	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的分野の「見方・考え方」を働かせることができるように、「見方・考え方」の具体を表示し、問いと一体化させて学習内容を習得できるような工夫がある。 豊富な写真資料に加えて、学習内容に適した歴史地図が掲載されており、歴史事象を空間的に認識することができる。 各章(各時代)の初めには、「タイムトラベル」が配置されており、イラストを活用することで、視覚的に時代を大観することが可能である。
社会 (公民的分野)	<ul style="list-style-type: none"> 「LOOK」のコーナーが各単元の学習の導入場面に設けられており、生徒の興味関心を高めやすい話題であることから、学習に向かう動機付けに効果的である。 コラムが充実しており、現代社会のさまざまな話題が掲載されているので、生徒の興味関心を喚起させやすい。 多様な思考や表現活動ができるような問いが設定されており、主体的・対話的な学びが実現できるような構成となっている。
社会 地図	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の歴史、産業など、多様な情報が地図上に掲載されているため、地理的分野の学習だけではなく、歴史的分野や公民的分野の学習にも活用することができる。 「地図活用」では、単元で学習した内容を地図上で確認することができ、地理的な見方・考え方を地図上で可視化させながら働かせることができる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインを意識した落ち着いた感じの配色であったり、文章が読みやすいように改行されていたり、生徒にとって分かりやすい体裁になっている。 本文の中に、適宜、既習事項や要点、ヒントが示されており、生徒の理解を手助けしたり、理解を深めたりすることができるように工夫されている。 ページの下には、そのページの問題を解決するために働かせた「数学的な見方・考え方」が示されている。 「みんなで学ぼう編」の冒頭では、話し合うときや発表するとき、ノートを取るときのポイントを具体的に示したり、基礎・基本の定着から数学的な思考力・表現力を身に付けるための学習の手立てが示されている。 単元の終わりの練習問題の解答が見やすく整理されており、生徒の使いやすさに配慮されている。 「話しあう」「説明しよう」「まとめよう」というタイトルで、自分の言葉で伝えたり、深く考えたりする場面を多く取り入れており、数学的な思考力や表現力を高めることができるように工夫されている。 「自分から学ぼう編」では、既習事項とのつながりを振り返ることができる内容や、既習事項を活用して考える課題が示されている。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 探究の過程を通じた学習活動で、資質・能力を育てながら学習が進められるように構成されている。 各単元に1つ探究しやすい題材を「探Q実験」として選び、仮説や実験の計画を生徒自身が考えられるように工夫されている。同時に自分の考えを書き込める「探Qシート」を活用することで、対話による生徒の考えの変化が見とれるようになっている。 A/B版が採用され、大きくなった紙面を生かして写真や図が大きく配置され、ダイナミックな紙面構成となっている。 生徒が理解しにくい内容や誤解しやすい内容に「例題」や「なるほど」を設定し、正しく理解するポイントを分かりやすく示し、基礎・基本がしっかり身に付く内容となっている。 生徒の一人一台端末環境に向けてQRコードを掲載しており、新しい時代のICT教育に向けたQRコードを介したデジタルコンテンツの資料が視聴できるようになっている。
音楽 (一般)	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示されている【共通事項】が小学校から系統的に示されており、根拠をもって音楽を聴き味わうための窓口が生徒にとって分かりやすい。また、鑑賞曲についても効果的に楽譜が掲載されており、生徒が音楽を聴く手がかりになる資料が多い。 作曲家や作詞者の言葉が多く記載され、曲の背景を知り、思いをもって歌うことができるような工夫がされている。 【共通事項】を意識しながら聴く活動を取り入れ、楽曲について聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表現するよう、多くの曲で記入する活動を取り入れている。 学習内容や学習活動、楽曲のポイントが分かりやすい文章で示されている。
器楽	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的奏法の習得に役立つ練習曲が多く、簡単な練習曲や映画音楽、わらべ歌や民謡などが掲載され、取り組みやすい楽曲が豊富である。 進んで学び合う器楽活動が展開できるように工夫されており、学習内容の関連を図りながら、音楽の学びを計画的に見通すことができる。 学習内容や学習活動、楽曲のポイントが分かりやすい文章で示されている。 楽曲にふさわしい美しい写真によって生徒の関心意欲や想像力を高める工夫がされている。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の発達段階に合わせた基礎・基本的内容で構成されているので、学習の流れがつかみやすく、他教科とのつながりを意識した内容となっている。 生徒作品や作者の言葉が多く掲載されているので、興味関心を持ち制作できるような配慮がされている。 鑑賞においては、QRコードの読み取りや、音声ガイダンスを聞くことができるので、図版を見比べたり、見方や感じ方が広がる工夫がされている。 タブレット端末を活用した学習方法を取り入れているのでわかりやすい内容となっている。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 各学習内容が「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」の3つのステージで構成され、課題解決的な学習を進めることができるように紙面が構成されている。 各章のはじめに、学習内容と深い専門家からのメッセージが掲載されており、興味をもって学習に入ることができる。 各学習内容ごとに体育や保健の見方・考え方を働かせられるように、見方・考え方を働かせられるような課題が提示されている。 教科書内の他章や他教科との関連についても記載されており、学習内容について横断的に学習を進めることができる。 各ページごとと本文と資料の位置関係が統一されている見やすい。本文と資料が対応するように配置されている。わかりやすい。
技術	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにおける技術の活用例や最先端技術の例が多く掲載されており、技術と生活や社会との関連がわかりやすく配慮されている。教科書の下部には「技術の工夫」の欄を設け、生徒の興味・関心を高めるとともに、技術の見方・考え方を豊かにする工夫がされている。 マンガなどを取り入れ、学習指導要領で示されている技術の見方・考え方や最適化、学習過程などの説明(ガイダンス)が充実している。また、技術の見方・考え方を働かせた深い学びを実現できるように、家庭、学校、地域、社会に分けた問題発見例を掲載したり、さまざまな思考ツールの活用例を掲載したりして、問題発見、課題設定の場が充実するように工夫されている。 他教科、小学校での学習との関連が分かるようにマークが付けられ、学習を深めることができるように配慮されている。 誰もが読みやすい書体を工夫し、教育漢字以外の感じには全てルビを付けるなど、読みやすくなるように配慮されている。A/B判を採用しており、作業中でも教科書が見やすい。 本県の生徒の生活経験を生かしやすい実習例などが十分に見られる。Dマークコンテンツの掲載により、教育設備の不足などを解消できる。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 配列が食生活→衣生活→住生活→環境・消費生活→家族・家庭・地域と、自立と共生を意識した配列となっており、生徒の発達段階や本校の3年間の指導計画に合致している。 ガイダンスのページが充実しており、生徒が小学校の学習から中学校の学習、またその先の将来を見通した学習ができるよう工夫されている。 写真やイラストが鮮明で、明るく美しい。特に調理実習のページでは生徒が作ってみたいと思うような写真が多数掲載されている。 小題材の導入に当たるページに、「考えてみよう」「話し合ってみよう」「やってみよう」などの小見出しがあり、生徒が課題を見いだしやすいよう工夫されている。 「活動」という小見出しでロールプレイングや調べ学習などが提示されており、対話的な学びの充実がはかれるよう工夫されている。 巻末に用語説明が掲載され、生徒が主体的に調べることができるよう、サポートされている。また、巻末付録の防災・減災手帳や幼児の視界体験メガネは使ってみようと思うように工夫されている。 アイデアバッグコンクールや生徒作品コンクールに本県の生徒作品が取り上げられ、ものづくりへの興味・関心が高められる。また地域食材や郷土料理なども徳島県産の物が取り上げられている。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 小中接続期においては、「聞く」「話す」活動を重視している。また、小学校で扱った表現を、文法学習として整理できるように配列されている。 文法をコミュニケーションに結びつけるために、各Unit本文の前に、文法の「目的・場面・状況」を表す音と映像を見て、必要性や有用性を実感できるようにPreviewが新設されている。また、文法の用語や用法の区別などの指導が中心とならないようにも配慮されている。 文章を読むことから自分の考えや気持ちなどを話したり書いたりして発信することにつながる工夫がされている。概要や大意をつかみ、詳細をおさえ、表現につなげられるように設計されている。 人権、生命尊重など普遍的な課題や、SDGs、防災、異文化理解など今日的課題も幅広く取り扱っている。本校の総合的学習や他教科とのつながりをもって学習を進めることができる。 全学年を通して既習事項をスパイラルに学習できる配列である。そのため、既習事項を繰り返し使用することを通してさらなる定着を図ることができる。また段階的に語数を増やし、発達段階に合わせた課題を設定している。 実生活に即した場面や状況からコミュニケーション活動ができるように設計されている。またコミュニケーション活動のテーマとしては、身近な対話から社会的話題まで段階的に取り上げられている。 新学習指導要領から導入される領域の1つの「話すこと〔やり取り〕」について、小学校から高校へと段階的・系統的に力をつけられるように各所で設定されている。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも中心的に扱う教材を35本、補助教材を全学年、6本の教材を掲載している。 各学年に、問題の解決に向けて話し合うことができる教材を配置し、様々な道徳上の問題や課題に多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。 自らを振り返るための工夫については、各学年の別冊に、心に残った教材やその理由を記入する「心に残っている授業の記録」を配置し、自らの道徳的成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。 学習のめあてと問いで構成された「学習の手がかり」によって、生徒は明確な課題をもって主体的に学習に取り組むことができるようになっている。 「考えを広める・深める」では、自分との関わりで考えたり、自己の体験で想起したりして考える問い、物事を多面的・多角的に捉えるきっかけをつくる問い、道徳的価値に関する思考を促す問いなど、生徒が「さらに考えたい」問いを配し、より充実した学習ができるように構成されている。